



原発のない社会への願いを込め、風船を飛ばす参加者たち―東松浦郡玄海町

放射性物質拡散 風船飛ばし予測

市民ら、玄海町で

原発のない社会を目指す佐賀や福岡の市民グループら約150人が8日、福島第1原発事故と同様の事故が起きた場合、放射性物質がどこまで拡散するかを予測しようと、

玄海原発が立地する東松浦郡玄海町から風船千個を飛ばした。

風船には連絡先を書いたカードを装着。フェイスブックなどの呼び掛けに応じた若者や子ども連れも参加した。福岡県筑紫野市の女性(28)は「願っただけではなく、行動したかった」。福島県から鳥栖市に避難している木村雄一さん(52)は初めて玄海町を訪れ、「被災者にとってはあの日から何も解決していない」と訴えた。

企画した福岡県糸島市の柳原憲文さん(42)は「選挙でも被災地のことはほとんど語られない。3・11を風化させてはならない」と話し、今後も玄海原発付近から風船を飛ばすことになっている。

2012年12月9日「佐賀新聞」



脱原発の願い 天へ

「放射能拡散、風船で検証」


九州電力玄海原発（佐賀県玄海町）で事故が起き、放射性物質が放出された場合、どこまで拡散するのかを調べようと、福岡、佐賀両県の市民団体が8日、原発の近くから約1千個の風船を飛ばした。

原発の停止を求めて係争中の「原発なくそう！九州玄海訴訟」のメンバーが中心。約150人が参加し、合図に合わせて手を離すと、色とりどりの風

船が空へと一気に舞い上がった。

風船には連絡先を記したカードを付け、拾った人に連絡を呼びかけている。裏には「自然を守ろう」「原発さよなら」など、参加者のメッセージが書き込まれている。

飛ばした風船は風に乗っかってという間に小さくなった。福島市から佐賀県鳥栖市に妻子と避難している木村雄一さん(52)は「風船ですらあれだけ飛ぶ。放射性物質ならさらに遠くに飛ぶのでは」と話した。(関田航撮影)

 デジタル版に動画

2012年12月9日「朝日新聞」